

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ						
(1) 事務事業名	生涯学習推進事業			(2) 新規・継続評価の別		
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画		(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち			課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり			係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進		(5) 主担当者区分	主任	
	施策	読書活動の拡大・促進		(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第3条 野木町立図書館管理運営規則第5条					

2. 事業内容・投入コスト				
(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	一般住民	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	生涯学習推進事業は、「講座・講演会」、「図書館コンサート」、「図書館シネマ」の3つに分けられる。講座・講演会は読書のまち推進事業の一環として、外部講師等を起用し講座を開催する。図書館コンサートは、ボランティアを起用し、音楽や朗読等の内容で実施する。図書館シネマは、図書館所蔵の視聴覚資料を活用し、上映会を実施する。図書館は、それらのコーディネートを行う。		
	前年度から改善した点	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施の可否を検討し、実施可能なものにおいては、感染症対策を徹底し、内容を見直したうえで実施した。限られた定員数の中で一人でも多くの方に足を運んでもらえるよう、広報を工夫した。講師やボランティアと、感染症対策徹底の連絡を密にとった。		

(2) 投入コスト	会計			予算科目	款	項	目		
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	2,063	2,006	1,860	2,011	2,011
		事業費等		千円	287	190	66	217	217
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
	一般財源	千円	287	190	66	217	217		
	人件費		千円×人役	1,776	1,816	1,794	1,794	1,794	
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.30	6,053 × 0.30	5,981 × 0.30	5,981 × 0.30	5,981 × 0.30			
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.00	470 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標											
(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	①「講座・講演会」、「コンサート」 講座・コンサート開催の企画・折衝・調整・広報・関連資料の展示・貸出 ②「図書館シネマ」 「みんなでシネマ」の制度を利用し、上映権処理されたDVDのうち優良な資料かつ、興味を持ちそうなタイトルを選定する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				講座・講演回数	種	4	4	100.0	4	-	-
				コンサート開催回数	回	1	1	100.0	2	1	50.0
図書館シネマ開催回数	回	13	10	76.9	13	-	-				
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・新型コロナウイルスの影響により、各々の生涯学習推進事業が実施できなかった。 ・図書以外での図書館利用の手段を感じてもらうことが難しかった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				講座・講演延参加者数	人	300	275	91.7	300	-	-
				コンサート延参加者数	人	30	30	100.0	50	16	32.0
図書館シネマ延参加者数	人	180	221	122.8	180	-	-				

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	学習の機会の提供・図書館利用の促進により、読書のまちの推進に繋がる事業である。また、読書が苦手な方でも、映画鑑賞であれば物語に触れられる機会として重要である。参加者を対象に、次第に読書好きになるように誘導する上で必要な事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	団塊の世代の大量退職によりニーズは増大している。また、子育て世代を対象に親子参加型の講座やコンサートを開催することで幅広い世代のニーズが増大している。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	図書館管理運営体制によるため、B評価とした。ただし、上映中の会場管理については、ボランティアとの協働の検討の余地あり。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	生涯学習事業のうち、図書館事業として、公民館及び交流センター等との事業の棲み分けによるため、A評価とした。また、コロナ収束後は、例年同等の予算が見込まれるため、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	町内外等に限定しておらず、HPや広報のぎでお知らせし、参加者を広く募集しているため、偏りは無く、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	受益者負担を求める事業ではないため、A評価とした。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	積極的にボランティアを募り、開催するよう努力することで幅広い集客が見込め、利用者の拡大が望める。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	社会教育施設として、また、図書館法に基づき実施している事業であり、今後も実施していく必要がある。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	各種「講座・講演会・コンサート」において、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、ことごとく中止となってしまった。今後も引き続き感染拡大の状況が変わらないのであれば、感染症対策をしつつ、実施できる範囲で工夫し、今までの趣旨を継承しながら、町民のニーズに合った生涯学習推進事業を提供したい。具体的に、各種講座については、ニーズの把握により他の生涯学習施設との調整を図り、新規講座の検討等。図書館コンサートについては、ボランティアの募集により開催回数を増やす。図書館シネマについては、団塊の世代を意識した大人向けの上映会を今後も継続して開催する。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 生涯学習の観点から、事業の継続は必要不可欠である。
		所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 読書のまちの推進には、必要な事業であるので継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	所蔵数が事業ともに県内随一であり、布絵本の利用が定着しつつある。また、ぬくもりのある布絵本を介して親子のふれあいを望める必要な事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	乳幼児・小学生、また、小さいお子さんを持つお母さんたちに大変好評でありニーズは高い。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	布絵本製作は図書館がキット等の材料を購入し、ボランティアが製作している。完成品を購入する場合、キット等のみの倍以上の価格になる。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	上記の通りボランティアと協働し製作しているため、コストは押えてあり、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	布絵本のはじまりは障害者向けであったが、現在は乳幼児から祖父母まであらゆる利用者が対象であるため、受益者に偏りはない。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	図書館事業の一環であるため受益者負担を求めるものではない。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	多くの利用者から好評を得ている布絵本を通して、野木町のPRを行う等にも活用できるため、むしろ推進すべき事業である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	多くの方から支持され、好評を得ている布絵本のニーズは高く、継続すべき事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	平成30年度は、「わたしたちの野木」タペストリーが完成し、展示を通して多くの目に触れることで野木町をPRすることができた。新型コロナウイルスの影響を受けて、作業が滞ってしまうことがあるが、現在、町のシンボルでもある国指定重要文化財「野木町煉瓦窯」のオリジナル布絵製作を手掛けている。完成した折には、布絵本を通して町をPRし、町民に対しても、改めて郷土に関心を持ち、心寄せをきっかけとしたい。引き続き、感染症対策に配慮しながら、作業を進めていきたい。並行して、既成の布えほん製作を進め、所蔵冊数を増やし、様々な方々や子供たちに温もりのある布絵本を貸出できるよう、心を込めて作成していきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 他の図書館と比較しても、先進的な取り組みとなる事業であり、単なる布の絵本としてだけでなく、郷土に関心を持つきっかけともなる。ふるさと愛等、様々な表現ができるツールとして、これからは事業を拡大するべきであるとする。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 すべての方が対象であり本町の特徴的な取り組みであるため、今後も継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館支援ボランティア事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第三条、野木町立図書館管理運営規則第五条				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	既存ボランティアの方々及び新規加入者	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	図書館の事業(書架の整理、本の修理・美化、リサイクル本の処理、イベント等のお手伝い、周辺施設の美化活動など)を手伝ってくれるボランティアの育成事業。		
	前年度から改善した点	読書のまちとして図書館運営を活性化させるために、ボランティアからの意見や提案を取り入れるよう努力している。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	4 目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
			コスト総額		千円	1,237	1,211	1,196	1,196	1,196
			事業費等		千円	53	0	0	0	0
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	53	0	0	0	0	
			人件費		千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196
正規職員			千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20		
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.00	470 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・各ボランティアの登録及び更新 ・図書館支援ボランティア向け説明会及び研修会 は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				説明会開催回数	回	1	1	100.0	1	0	0.0
				研修会開催回数	回	1	1	100.0	1	0	0.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・年間を通し書架の整理等を含む図書館の美化 が保たれている。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				図書館支援ボランティア登録者数	人	20	27	135.0	20	22	110.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	読書のまちづくりの拠点として、図書館活動を推進する上で、ボランティアの共同は必要不可欠である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	ボランティアとの協働は図書館運営において不可欠であり、ニーズは高い。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	野木町立図書館において活動するボランティアの養成事業であるため、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	専門的な内容のボランティア養成については、図書館だけでなく、関係機関との連携も図り養成していくものである。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性が保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	主要な役割に偏りがなく、公平性が保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	図書館において読書のまち推進のために活動するボランティアの養成事業であるため、受益者負担はない。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	ボランティアとの協働は必要不可欠であり、活動の充実を図るため、継続して行う必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	読書のまち推進及び図書館運営上、ボランティアの育成・養成は必要不可欠である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>ボランティアとの協働を推進するために、関係機関と連携をし、資質向上のための支援を行うとともに様々な機会を継続的に提供する。また、新たなボランティア育成のための方策について自ら学習する等、自己啓発を図る。</p>			
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	読書のまちづくりの拠点となる図書館において、ボランティアとの協働は必要不可欠であるため、今後も継続してボランティアの募集や養成、研修を行っていく。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館運営にはボランティアとの協働が必要不可欠であるため、今後も継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	ブックプラスOne! 事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第3条、野木町立図書館管理運営規則第5条				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町内全小学校新1年生	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	ブックスタートのセカンドステップとして、野木町内の小学校に入学する全ての児童に本を一冊贈呈し、家庭においても読書に親しむ環境づくりをする。また、読み聞かせ時期から自分で読書をする移行期に、読書への関心を高め、読書を通して子どもたちの豊かな心を育む。		
	前年度から改善した点	町内小学校の司書や図書担当教諭と連携を図り、子どもたちのニーズや出会ってほしい図書を検討し、贈呈本リストの内容を見直した。		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		款 項 目			
	事業費	区 分	単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
			コスト総額	千円	1,396	1,437	1,412	1,499
		事業費等	千円	212	226	216	303	303
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	212	226	216	303	303
		人件費	千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196
		正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.00	470 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	<ul style="list-style-type: none"> 入学式当日、野木町内の小学校に入学するすべての児童に本を1冊贈呈 贈呈本の選書 新1年生保護者向け事業の説明 申込書配布→回収 贈呈本発注及び購入 贈呈本配布 			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		対象人数	人	212	212	100.0	203	203	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	家庭においても読書に親しむ環境づくりの援助をすることで、読書への関心を高め読書を通して子どもたちの豊かな心を育む。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		配布冊数	冊	212	212	100.0	203	203	100.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	「キラリと光る読書のまち野木」の推進事業であると共に、子育て支援のセカンドステップとした事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	読み聞かせ時期から自分で読書をする移行期に、読書への関心を高め、子どもの読書活動推進に必要な事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	「キラリと光る読書のまち野木」宣言に基づき、継続的に町をあげて読書推進活動に取り組み、子どもたちに本との出会いの機会を町が直接提供するものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	読書環境を整えることであり、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	町内の小学校に入学するすべての児童が対象であるため、受益者に偏りは無い。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	「キラリと光る読書のまち野木」宣言に基づくものであると共にブックスタートのセカンドステップとして継続的に読書環境を援助していくうえで、妥当と考える。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	選書について、現場の生の声を聴くため学校の先生や学校図書館司書と連携を組み意見等徴収し、より良い選書を行う。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	「キラリと光る読書のまち野木」宣言に基づき、町をあげて読書推進活動に取り組み、継続的に取り組むべき事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	自分で読書する習慣を身につける移行期である時期に、読書の楽しさに気づかせ、習慣付けができるように、引き続き町内各小学校と連携し、こどもの読書推進活動の援助をしていきたい。事業計画の煩雑な箇所を見直し、改善をはかり、よりスムーズに事業実施が進められるよう検討したい。贈呈本リストについては今後も定期的に見直しを図り、より良い図書をこどもたちに届けられるよう、選書に力を入れたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 ブックスタートのフォローアップとして、子どもの読書の基盤づくりになる事業であるため、今後も継続すべきである。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価			町長

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館資料整備事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第3条、野木町立図書館設置条例第1条、野木町立図書館管理運営規則第2条				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	町民が求める情報を提供することを目的とし、図書、その他の視聴覚資料等を収集、整理、所蔵する事業。また、高齢者や障がい者向けの資料として、CD文庫、大活字本等を積極的に配備する。		
	前年度から改善した点	事業内容は例年通りであったが、利用者のニーズにあった図書館資料を偏りなくそろえた。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	4 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	9,740	9,855	8,738	8,738	8,738
		財源内訳	事業費等	千円	6,957	6,957	5,956	5,956	5,956
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
	一般財源	千円	6,957	6,957	5,956	5,956	5,956		
	人件費	千円×人役	2,783	2,898	2,782	2,782	2,782		
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.44	6,053 × 0.44	5,981 × 0.44	5,981 × 0.44	5,981 × 0.44			
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.50	470 × 0.50	300 × 0.50	300 × 0.50	300 × 0.50			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	・利用者のニーズに応じた図書及び視聴覚資料の充実。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		蔵書点検	点	150,000	162,014	108.0	150,000	167,457	111.6
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	・新型コロナウイルス感染拡大防止による休館や利用制限により、貸出点数は減少した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		貸出点数(本館)	点	180,000	172,080	95.6	180,000	101,322	56.3
	貸出点数(60歳以上)	点	50,000	76,861	153.7	50,000	55,233	110.5	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	利用者のニーズは多岐にわたっており、利用者に有益な図書を購入するためにも必要な事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	図書購入のリクエストが利用者から多数寄せられ、原則、応じているのでニーズに即しているといえる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	登録、装丁業務については、すでに一部外部委託をしている。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	・類似事業との統合、連携は考えられない。 ・町民へのサービス維持のためコスト削減は難しい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	利用者のニーズに応じ、図書資料を分類・分野等偏り無く購入している。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	図書館法第17条(入館料等)により受益者負担を求める事業ではない。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	利用者のニーズに応えられているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	図書購入・登録は図書館運営上必要不可欠の事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者 ・利用者のニーズに応じた図書資料を偏り無く購入する。 ・郷土資料の充実を図る。 ・蔵書の少ない、かつ利用者の需要の高い分野について、資料の充実を図る。
(2) 評価・今後の方針	1次評価 担当係長 評価 C. 事業継続 今後の方向性 図書館運営上、必要不可欠の事業である。また、デジタル化の推進に伴い、電子資料の導入等が課題となっており、導入について今後検討が必要である。
	2次評価 所属長 評価 C. 事業継続 今後の方向性 図書館資料充実のため、今後も継続すべき。
	3次評価 町長 評価 今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	読書のまちづくり推進事業		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会	
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課	
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係	
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主事		
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課	こども教育課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町民の読書活動の推進に関する条例					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	読書のまち宣言を機に読書のまちづくり推進のために始まった事業である。 読書コンクール、読書ノート活用事業「多読賞表彰」、図書館まつり等の計画・関係機関との調整及び実施。		
	前年度から改善した点	令和元年度の反省点を生かし、企画・運営を行った。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	4 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	2,304	2,189	2,251	2,251	2,251	
		事業費等	千円	204	56	136	136	136	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
	一般財源	千円	204	56	136	136	136		
	人件費	千円×人役	2,100	2,133	2,115	2,115	2,115		
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.25	6,053 × 0.25	5,981 × 0.25	5,981 × 0.25	5,981 × 0.25			
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×			
その他職員	千円×人役	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・読書コンクールについては、6月頃から募集チラシや実施要綱等の準備を進めて町内の幼稚園、保育園、小中学校に配布、作品募集依頼。 ・図書館まつりは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				読町コンクール	回	1	1	100.0	1	1	100.0
				図書館まつり	回	1	1	100.0	1	0	0.0
多読賞表彰	回	1	1	100.0	1	1	100.0				
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・読書コンクール開催により、多くの子どもたちが本に親しむ機会が増えた。各校に応募作品の選考を依頼し、一次選考がスムーズにできた。 ・図書館まつりは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				図書館まつり来館者	人	1,000	1,895	189.5	1,000	0	0.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	読書のまちづくりの推進事業として目標に結びつく。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	達成度は100%を超えており、ニーズの高い事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	読書のまち推進に関する条例に基づく事業であり、主に学校等との、関係機関との連携強化を維持していく必要がある。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	各学校や地域住民及び利用者に理解を求めながら各事業を効率的に行っている。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	幅広い年齢層の方々を対象としており、広く一般的に広報している為、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	読書のまちづくり推進事業の一環であり、受益者負担はない。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	多読賞表彰について、申込手続き等で各校の担当教員との共通理解をすることができ、スムーズに行うことができた。反省点等を踏まえてより良い事業となるよう改善をしたい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	読書のまちづくりのために必要な事業であるため、継続すべき事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	・読書コンクール表彰、多読賞表彰について、令和2年度より小中学校関東全国出場報告会と合同開催する形に変更した。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	読書のまちづくり推進事業として、今後も内容について協議検討し、継続して実施していくべきであると考えます。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	現状に満足することなく、さらに改善しながら今後も継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	移動図書館事業		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会	
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課	
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係	
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	係長		
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課			
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町立図書館管理運営規則第16条					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町内各小学校児童、町内各幼稚園・保育園児	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	主に児童図書を積載した、移動図書館車(ひまわり号)巡回による貸出業務の他、こどもたちの要望(リクエスト)に応じ、次回巡回時に資料を提供する。		
	前年度から改善した点	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、巡回できない期間もあったが、各小学校図書館司書及び幼稚園・保育園と連絡調整を密にし、感染防止対策を行いながら、児童のニーズに対応できるように努めた。		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		款 項 目			
	事業費	区 分	単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
			コスト総額	千円	1,502	1,464	1,379	1,434
		事業費等	千円	282	206	153	208	208
	財源内訳	国支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	282	206	153	208	208
		人 件 費	千円×人役	1,220	1,258	1,226	1,226	1,226
		正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20
		正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.10	470 × 0.10	300 × 0.10	300 × 0.10	300 × 0.10
		その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(1) 活動 指標	・町内各小学校年間10回(8月・3月を除く)巡回 5校×10回=50回 ・町内各幼稚園・保育園年間2回巡回 4園×2回=8回 ・POP本や季節の本の展示により、児童の興味関心のある資料の提供	小中学校巡回回数	回	50	50	100.0	50	30	60.0
		幼稚園保育園順回数	回	8	8	100.0	8	8	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、巡回が実施できない期間があり、貸出人数・貸出冊数ともに減であるが、生徒児童等が読書に対し興味関心を持ち、読書活動が持つ多面的な機能の発揮に繋がっている。	貸出人数	人	5,500	7,752	140.9	5,500	2,684	48.8
		貸出冊数	冊	14,000	16,124	115.2	14,000	6,897	49.3

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	読書の町づくりに欠かせない事業であり運営は概ね良好である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	図書館から離れている地域の学校にも出向くため、ニーズも大変大きい。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	各学校等との連携事業のため、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	図書館と各学校等との連携事業であり、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	子どもたちが本にふれる機会の公平性は保たれており、読書環境の向上を図っていると言える。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	受益者負担を求める事業ではないため、A評価とした。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	図書館から離れている地域の学校にも出向くため必要不可欠である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	図書館と各学校等との連携事業として行っているものであり、上記の理由により継続すべき事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	読書のまち野木に相応しい読書環境整備につながるものとして推進していきたい。今後も学校や幼稚園・保育園と連絡調整を十分にを行い、児童、生徒等のニーズに対応し、読書活動の推進に努めたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	町立図書館に来館できない子ども達のために、必要不可欠な事業である。また、移動図書館車導入より25年経過していることから、車両の更新の検討が必要である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			子どもたちが読書への関心を高め、豊かな心を育むためにも必要な事業であり、今後も継続すべき。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	おはなしの楽しさ、面白さを体験することで想像力、情緒、感性が豊かになるといわれている。子どもたちにより多く本に親しんでもらうためにもおはなし会は必要である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	新型コロナウイルス感染拡大予防のための外出自粛により、参加数の減少が見られるが、絵本の読み聞かせは子育てをするに当たり必要不可欠であり、読書のまちを推進していく上で、必要な事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	ボランティアによるおはなし会が9割を占めており、図書館職員によるおはなし会が1割である。日程調整、広報活動等、全体事業との兼ね合いから主体は行政が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	ボランティアとの協働、図書館資料の有効活用等コストをかけずに行っており、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	乳幼児から小学生まで、幅広い年齢の子どもたちを対象にPR等、広く声をかけ公平に努めている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	おはなし会は誰でも無料で参加できる事業である。絵本の読み聞かせは子育てをする上で必要不可欠であり、それを語り伝える人材を育成するのは読書のまちを推進するに当たり、妥当と考える。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	ボランティアとの協働、図書館資料を有効活用しコストをかけずに行っており、読書のまち、協働のまちの推進の観点からも、継続して行うことが望ましい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	読書のまちを推進していく上で重要な事業であるため、実施を継続することは、必要不可欠である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	子どもの読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、生きていく力を身に付ける上で欠かすことのできないものである。そのため今後は他市町の実施内容等を参考にしながらPRの工夫に努めるとともに、対象者のニーズに合った内容の見直しを行い、多くのお子さんにおはなし会に足を運んでいただけるよう、事業の充実を図る必要がある。引き続き、絵本の選定力の向上や技術向上など、職員のスキルアップ及びボランティアの育成に力を入れていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 子どもたちに本の楽しさを伝えることで、読書への興味・関心が高まる。読書活動を推進するに当たり、必要不可欠な事業である。新規ボランティアの育成が課題である。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 子どもが本に親しみ、興味を持ってもらうために必要な事業である。職員及びボランティアのスキルアップや新規ボランティアの育成に力を入れ、今後も継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	相互貸借		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会	
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課	
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係	
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主任		
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課			
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第8条					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住、在学、在勤の方	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	利用者のリクエストにより、県内外の図書館と連携して、資料の相互貸借を行う。野木町立図書館に所蔵の無い資料を、他の図書館から借りて貸し出す。他の図書館で所蔵の無い資料を野木町立図書館から、その図書館に貸し出す。		
	前年度から改善した点	利用者へなるべく早く資料を貸出できるよう随時処理経過を監視し、待期間が長くなったものについては、予約館を変更するなど柔軟に対応するように図った。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	款	項	目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196
		事業費等		千円	0	0	0	0	0
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
			一般財源	千円					
	人件費		千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196	
	正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20		
	正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	<ul style="list-style-type: none"> 野木町立図書館に所蔵のない資料について、システム上で県内図書館より借受申請。 相互貸借貸出一覧、借受一覧の作成。 図書資料の転送手続。 県内図書館にない所蔵のない資料については、県外図書館へ文書により借受申請。 他図書館から貸出の申請を受けた資料の貸出。 			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	<ul style="list-style-type: none"> 野木町立図書館に所蔵のない資料を相互貸借により借り受け、利用に供することで、利用者の満足度向上に繋げることが出来た。 県外相互貸借により、県内にない資料についても貸出を行うことができた。(送料利用者負担) 			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				貸出数	冊	500	763	152.6	500	701	140.2
				借受数	冊	1,000	1,837	183.7	1,000	1,243	124.3

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	利用者のリクエストに対して、すべて購入による対応が不可能なため本事業の役割は重要である。読書のまち推進のため必要不可欠な事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	当町からの書店の撤退により、図書の求め先が図書館のみの状況ということもあり、以前と比較して、更にあらゆる分野の図書のニーズが増大している。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	個人情報及び他館資料取扱責任があり、図書館間で行う事業のため行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	類似事業はなく、コストは人件費のみの通常業務であるため、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	在住・在学・在勤区分の利用者であれば利用できるサービスであり、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	図書館法第8条に基づき、県内相互貸借については無料で利用できる。県外相互貸借については、送料のみの利用者負担のため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	野木町立図書館で所蔵していない本にニーズがあった場合、利用者のリクエストに対して、すべて購入による対応が不可能なため本事業の役割は重要である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	利用者の様々なリクエストのニーズに迅速に対応するため、本事業の役割は重要である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	利用者の多様な要望に応える上で、図書館資料の相互貸借事業は必要不可欠である。情報化社会に対応するため単一の図書館には限界があり、関係機関とのネットワークを密にする等、連携・協力を今後も推進し、事業の充実が重要課題である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館業務上、必要不可欠な業務であるため、今後も継続すべき事業である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	利用者のリクエストに応じるために有効な事業であり、今後も継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館関係団体貸出		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町立図書館管理運営規則第15条				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館関係団体	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	小学校等のみきかせボランティア、学童、町内施設など、団体登録をしている団体を対象に、多数かつ長期間の貸出を行う。 また、児童生徒の読書活動推進のため、及び図書館(主に書庫)にある本の有効活用(学習や学級文庫としての活用)を図るため、町内各小中学校7校に200冊から400冊を半年毎に年間2回貸出ししている。		
	前年度から改善した点	各学校の団体貸出のニーズに合わせて、まとまった冊数の定期6ヶ月貸出と、リクエストによる少数の冊数の随時1ヶ月貸出の併用運用とした。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	款	項	目		
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)		
			コスト総額	千円	947	968	957	359	359	
		財源内訳	事業費等		千円	0	0	0	0	0
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
		一般財源	千円							
	人件費		千円×人役	947	968	957	359	359		
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.16	6,053 × 0.16	5,981 × 0.16	5,981 × 0.06	5,981 × 0.06				
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度			
	・次年度の実施に向け意見を聞くために、年度終了前に担当者会議を開催する。 ・貸出冊数の希望と貸出日の調整を行い、年間予定を作成する。年間予定により本の貸出をする。 ・学校司書との連携により、生徒児童等のニーズにあった本のリクエストを受けることができ、読書のまちの推進につなげることができた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				学校貸出回数	14	14	100.0	7	7	100.0
				学校貸出冊数	3,600	3,600	100.0	1,800	2,305	128.1
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度			
	・読み聞かせボランティアを中心に、カウンターで資料の貸出を行う他、レファレンスを受ける。 ・読み聞かせボランティアを中心に資料の提供を実施した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				団体貸出点数(除学校)	5,000	6,921	138.4	2,500	1,906	76.2

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	町内小中学校、小学校での読み聞かせ団体、学童や老人保護施設などに貸出を行っている。多数の本を長期間貸出できるため、読み聞かせの勉強会や大勢が集う施設などで利用されており、ニーズに合わせたサービスができています。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	各団体とも活発に活動しており、ニーズも高い。また、各学校司書の協力もあり、児童生徒の読書ニーズを把握することができるため、ニーズが増大している事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	読書のまち野木宣言及び子ども読書推進計画に基づき、関係機関と連携し実施しているため、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 C. 予算やコスト削減ができる	理由	団体貸出のうち、町内小中学校に対する、まとまった冊数の6ヶ月貸出については、あまりニーズがないので、事業の見直しにより人件費等のコスト削減が可能である。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	町民に広く読書の機会を届けることを目的としており、登録団体を対象に公平に事業を実施している。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	受益者負担を求める事業ではない。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	人員削減や新たなニーズの発生により、現在の全体業務を維持することが困難となっているため、ニーズに偏りがある、当該業務を再検討し、他の業務にコストを振り返る必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	図書館資料を有効活用し、町民の読書活動推進に繋がるため、継続して行う。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	当該業務のうちまとまった冊数の6ヶ月団体貸出については、図書館所蔵資料のうち利用されないものの有効活用を目的に始まったものであり、利用の可能性の少ない資料を各小中学校に押し付けている面があった。実際、貸し出した資料は、ほとんど利用されていない現状があるため、今後は、各小中学校からのリクエストによる1ヶ月団体貸出に業務の軸足を移すとともに、これまでの6ヶ月貸出にニーズがある場合には、資料の学校への保管転換を行うことで、利用されない資料の有効活用と人件費を他の業務に振り向けることが適切であると考えられる。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 D. 事業縮小・再構築の検討	今後の方向性 読み聞かせボランティア団体への貸出は利用率も高く需要があると考えられ、今後も継続すべきと考える。各小中学校への6ヶ月の貸出は需要が少ないと思われ、リクエストによる1ヶ月貸出の業務に切替えるなど、各学校のニーズ・図書の有効活用について、各学校と協議しながら事業を進めていく。
	2次評価	所属長	評価 D. 事業縮小・再構築の検討	今後の方向性 各団体や学校のニーズに応じられるよう協議検討し、今後も図書を有効活用する事業として進めるべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館協議会		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	図書館施設・設備の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第14条・野木町立図書館設置条例第4条				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館協議会委員	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	生涯学習課長及び図書館長の諮問機関である図書館協議会の開催等に関する諸事務を行う。 1年間に2回開催している。		
	前年度から改善した点	利用者の多様化するニーズに対応するため、読書環境の整備や課題・問題等の洗い出しを行い、「図書館の在り方」について協議した。		

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		款 項 目			
	事業費	区 分	単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
		コスト総額		千円	1,354	1,313	1,307	1,375
事業費等		千円	170	102	111	179	179	
財源内訳	国支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	170	102	111	179	179	
人件費		千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196	
正規職員		千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×	
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	協議会の開催回数とその意見徴収機会			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度		
	生涯学習課長及び館長の諮問機関であり、図書館としての課題や長寿命化を目指した改修に向け検討していくにあたり、様々な意見を聞くことができる。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	読書のまちづくりを推進するための中枢であること、また、野木町立図書館の運営について、協議するための組織である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	図書館法に基づく諮問機関であり、多様化するニーズに対応する図書館の在り方の検討等、意見を徴収する上で必要不可欠である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	読書のまち野木宣言に基づいた関係機関との連携強化に努めるため、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	住民や利用者の意見を聞くための法的位置づけの組織であるため、類似事業はなく、コストの削減もない。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	図書館の関係機関、団体等から委員を選出し、幅広い多くの意見を徴収するよう努めている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	図書館法に基づく諮問機関であり、上記の公平性の観点からも、受益者負担を求める事業ではないため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	読書のまちづくり事業の一環として実施しており、各団体の支援活動として多くの利用があるため、引き続き実施していく。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	図書館資料を有効活用し、町民の読書活動推進に繋がるため、継続して行う。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>利用者の多様化するニーズに対応するため、読書環境の整備の強化や「図書館の在り方」について、課題や問題等を幅広い視点で洗い出し、意見徴収を行いながら協議していきたい。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 図書館法に基づく組織として、読書のまち野木の図書館の運営や読書環境の整備等について、幅広く一般からの意見を協議・検討する場として、継続するべきである。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 C. 事業継続</p> <p>今後の方向性 読書のまちづくりを推進するためには、必要不可欠な組織であり、今後も継続すべき。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館管理業務		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	図書館施設・設備の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町立図書館管理運営規則				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	図書館電算システム、夜間警備、清掃管理、消防設備等点検、冷暖房機器保守点検、エレベーター保守点検、電気工作物保守点検、植栽管理及び図書館建物等の図書館に係る全ての管理業務		
	前年度から改善した点	利用者のニーズに合った読書環境及び施設の改善に向け、開架及び生涯学習室の照明のLED化を図った。また、トイレの夜間電力を抑えるため電源を切る、冷暖房等の温度管理を細かく行い、省エネに取り組んだ。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	09 款	04 項	04 目		
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)		
			コスト総額	千円	19,160	9,181	14,183	15,509	15,509	
		財源内訳	事業費等		千円	17,976	7,970	12,987	14,313	14,313
			国支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
		一般財源	千円	17,976	7,970	12,987	14,313	14,313		
	人件費		千円×人役	1,184	1,211	1,196	1,196	1,196		
正規職員	千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20				
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 ×	470 ×	300 ×	300 ×	300 ×				
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×				

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	・図書館施設・設備を維持するための管理業務委託等の実施			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				契約件数	件	9	9	100.0	9
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	・施設、設備の適切な管理。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				管理業務件数	件	9	9	100.0	9

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	読書のまちの拠点として、図書館施設の適切な管理は、重要な事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	住民の知の拠点として、レファレンス業務等は増大しており、ニーズの高い事業である。また、書店が当町から撤退したことにより、その代替施設としての役割を果たす意味でも重要な事業となっている。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	読書のまち野木宣言に基づいた関係機関との連携強化を維持していくため行政主体が望ましい。また、民間である書店が当町から撤退したことから鑑みても、逆に民間が手を引く状況なので、行政主体でしかあり得ない。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現在の事業は、すでにスリム化しており、また、逆にサービス向上の要望が高い事業のため、類似事業の統合・連携や予算やコスト削減の可能性はない。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	町民はもとより、「栃木県南3市2町公立図書館の広域利用」と「関東どまんなかサミット」により、町外の利用者にも広く・公平に施設利用を提供している。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	図書館資料のコピーなど手数料については、利用者の負担であり、負担割合は妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	現在の事業は、予算削減や施設設備の老朽化の影響で、サービス低下が見受けられるので、維持管理において再検討の余地があると思われる。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	読書のまちの拠点として、図書館施設の適切な管理は、重要な事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	図書館施設については、老朽化が進んでおり、雨漏り対策としての外壁改修や、エレベーターのリニューアル、更には新時代のニーズに合わせた照明のLED化や設備の改修を、計画的に行う必要がある。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	施設の老朽化が進んでおり、改修箇所が増加しているのが現状である。設備の改修について、計画的に実施していく。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館を維持するために必要な事業であるため、今後も継続すべき。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ						
(1) 事務事業名	ブックスタート事業		(2) 新規・継続評価の別		継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会	
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課	
	分野別目標	安心して子どもを産み育てられるまちづくり		係	図書館係	
	施策分野	子育て支援	(5) 主担当者区分	主任		
	施策	子育て支援体制及び施策の充実	(6) 関連する課	健康福祉課・こども教育課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	図書館法第三条、野木町立図書館管理運営規則第五条、ブックスタート運営会議要領、野木町ブックスタート運営ボランティア設置要領、ブックスタート事業実施要綱					

2. 事業内容・投入コスト				
(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	4か月・8か月の乳児とその保護者	実施期間	R2.4 ~ R3.3
	事業内容	4・8か月の乳児健診の機会に、すべての乳児とその保護者を対象に、0才からの言葉かけや親子のスキンシップの大切さを実感してもらい、絵本を介して親子の温かな時間を過ごしてもらうために、絵本とブックスタートパックを手渡ししながら、絵本を使った「言葉かけ」や「わらべうた」などのふれあい遊びを紹介し、子育ての支援をしている。例年、ボランティアの協力を得て実施しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の為、ボランティアの起用なしで事務局のみで事業内容を縮小し行った。		
	前年度から改善した点	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず事業縮小。縮小した部分を、通知に変えて対象者へ資料配布した。しかし、体験を伴うブックスタートは、通知のみでは補えない部分もある。		

(2) 投入コスト	会計			予算科目	款	項	目		
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
			コスト総額	千円	1,682	1,714	1,693	1,714	1,714
			事業費等	千円	250	255	249	270	270
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
			一般財源	千円	250	255	249	270	270
			人件費	千円×人役	1,432	1,459	1,444	1,444	1,444
正規職員			千円×人役	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	5,981 × 0.20	
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.00	470 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00	300 × 0.00			
その他職員	千円×人役	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20			

3. 活動指標・成果指標											
(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	子育て支援事業の一環として、健康福祉課と協働し、毎月4・8か月の乳児健診時に、ブックスタートボランティアの協力を得て実施。 ・4か月児で手渡し、絵本等の発注・購入。 ・ブックスタートボランティアの資質向上のための定期的な研修会及び勉強会の実施。 ・相互理解を図るためブックスタート運営会議開催。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				ブックスタート開催回数	回	24	24	100.0	24	21	87.5
				ブックスタート研修会等開催回数	回	6	4	66.7	4	1	25.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	ブックスタートは、1組1組の親子とゆっくり話すことができ、親子のふれあいを深める取り組みとして、「子育て支援」や「本と親しむ環境づくり」を届けている。令和2年度は感染予防対策のため、ボランティアが関わり、ゆったりとした時を体験することができなかったが、通知においてメッセージを届け、野木町で生まれた全ての赤ちゃんに絵本を届けることができた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				ブックスタートパック配布数	人	172	172	100.0	156	156	100.0
				ブックスタート参加人数	人	172	172	100.0	156	156	100.0
ブックスタート研修会等参加人数			84	48	57.1	13	12	92.3			

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	子育て支援を目標にした事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	受診率の高い、乳児健診時に実施するものであり、ニーズは高く好評である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	継続的に続けることで、地域に根付く事業であるため、行政が主体となり、協力ボランティアと共に事業を実施する必要がある。また、地域の全ての赤ちゃんに向けて活動を行うことを目的としているため、行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	受診率の高い、乳児健診時に行うものであり、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	野木町で生まれたすべての赤ちゃんが対象であるため、受益者に偏りは無い。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	子育て支援事業の一環として必要不可欠な事業であると共に、読書のまち野木として継続して実施していくものであるため、妥当と考える。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	対象者である乳児及び産後間もない母にとって外出は大変である。少しでも負担を減らせるよう、時間の使い方等関係課同士で連携し、より良い形にしていく。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	野木町の特徴的な取り組みであり、子育て支援事業の一環として必要不可欠の事業である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてブックスタートの実施や研修会の開催の大きな影響が出た。野木町のブックスタートはボランティア(住民)の協力が必要不可欠の事業であるため、できる限りの協力体制と適切な人員確保に取り組む。他課との共同事業であるため、相互が協力し、意見を出し合い、野木町に生まれた全ての赤ちゃんとその保護者のためにより良い事業が提供できるよう、今後も感染症対策を含め、連携を密にしていきたい。素晴らしい取り組みを町民に周知するべく、HPなどを見直し、事業の広報活動に引き続き努めていき、全ての赤ちゃんに分け隔てなくブックスタートが受けられるよう、配慮していきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	他の図書館と比較しても、先進的な取り組みを行っている事業であり、単なる絵本のプレゼントではなく、親子のふれあいを通しての育児の一助や、子どもの読書の基盤づくりになる事業であるため、今後も継続すべき事業である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			「読書のまち野木」の特徴的な取り組みであり、今後も継続すべき。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	